

勅授

120 49

丙午
一四九
六二

立案	昭和	年	月	日
決裁	昭和	年	月	日

爵位課長

宗秩寮總裁

宮内事務官



陸軍憲兵大佐齊藤美夫特旨叙
位八件

昭和九年七月十一日裁可
七月十一日達
臺帳記入月 日官報報告済

裏面白紙



陸軍憲兵大佐齊藤美夫特
旨敘位，件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十九年七月十一日

内閣總理大臣東條英機

内

閣

裏面白紙

人陸位第六八二號

案起

昭和十九年七月六日

裁可昭和十九年七月十一日施行

昭和十九年七月十一日施行

昭和十九年七月十一日施行

昭和十九年七月十一日施行

昭和十九年七月十一日施行

昭和十九年七月十一日施行

昭和十九年七月十一日施行

昭和十九年七月十一日施行

昭和十九年七月十一日施行

内閣總理大臣

内閣書記官

内閣書記官

陸軍憲兵大佐齊藤美夫特旨叙
位一件

辭令案

例文

内閣

内閣
文部省
勅令
第九八号

叙從四位
昭和三十九年六月二十日 勅令第九八号 陸軍少將 陸軍憲兵大佐正 五位 齊藤 美夫
召集解除
昭和三十九年六月二十日 勅令第九八号 陸軍少將 陸軍憲兵大佐正 五位 齊藤 美夫

右文武官叙位進階内則第四條ニ依リ

謹テ奏ス

昭和十九年六月二十日

陸軍大臣 東條英機



陸 軍

裏面白紙

履 歴

陸軍憲兵大佐正五位 齊藤 美夫

年 月 日生

年 月 日	要 項	資 格	在 職 年 數	通 算
明治四十三年三月二十日	陸軍歩兵少尉	奏 任		
昭和十一年三月一日	陸軍憲兵大佐 (在任憲兵隊隊長)	奏 任	三十年五月七日	三十年五月七日
昭和十一年三月十五日	正 五 位			
昭和十七年六月二日	停 職			
同 年六月三日	豫 備 役			
同 年八月三十一日	臨時召集應召就職	奏 任	一年九月十二日	一年九月十二日
昭和十九年六月一日	憲兵司令部附	奏 任		
同 年六月十二日	召集解除			
合 計			三十二年二月十九日	三十二年二月十九日

陸位第七三三號ノ二

特旨敍位ニ關スル意見書

陸軍憲兵大佐 齊 藤 美 夫

右者別紙履歷書ノ通り陸軍出身以來三十餘年ノ永キニ亘リ其ノ間ノ成績顯著ナリシ處偶々昭和十七年四月軍用船ヲ以テ部下ノ内地ニ公用乗船スルニ際シ深ク思慮スルコトナク之ヲ便トシ自己私物品ヲ托送セシハ當時本人ノ在支隊長ノ地位職責ヲ辱カシメタルモノトシ停職次ヲ轉役セシメラレタルモノナリ其後ノ本人ハ全ク前非ヲ深ク悔ヒ只管謹慎修養ヲ續ケアリタル實狀ニ徴シ再度斯カル失態ヲ繰返スコトナク將來將校タルノ体面ヲ保持シ得ラルモノト判定シアリタル際昭和十七年八月三十一日臨時召集ニ依リ再就職ノ恩命ニ浴シタルニ依リ茲ニ曩ノ停職處分ハ免除セラレタルモノト解釋セラル處ナリ尙又再就職後中支總軍軍事顧問部本部附ニ在リテ中華民國警察隊關係重要業務ヲ擔任シ約二ケ年終始克ク積極的ニ服務セル成績ハ顯著ナルヲ確認セラル等ニ鑑ミ今回ノ召集解除ハ退職ニテ機會ニ特旨敍位ノ恩典ヲ拜受セシメ可然モノトスル意見ナリ

昭和十九年六月廿七日

陸軍省人事局長事務取扱



裏面白紙

陸位第七三號

叙位ノ件進達

昭和十九年六月二十七日

陸軍大臣東條英機

内閣總理大臣東條英機殿

陸軍憲兵大佐 齊藤美夫特旨叙位ノ件

右進達ス

昭和十九年七月十一日 期満

官報不登載

陸軍

19.6.27
付受
153

丙發第二七六號

陸軍軍醫大佐 正五位 齊藤美夫
特旨ヲ以テ位一級被進

正五位 齊藤美夫

敘從四位

右之通本日 宣下相成候條此旨及傳達候位記竝
辭令ハ追テ可及回送候也

昭和十九年七月十一日

宗秩寮總裁子爵 武者小路公共

陸軍大臣 東條英機 殿

宮内省

宮内省

神皇正統記

宗廟寮縣懸千箇 短答小淵公共

開味十平又日十一日

賴令ハ能て何又回致謝也

古之能本日 宣下能知謝也 出言又謝致謝也 出言

謝致四也

五丘也 齊新美夫

耕旨も以て謝一謝謝也

神皇正統記大正五丘也 齊新美夫

神皇正統記

神皇正統記 八五二